



尋一物見ケ岡
野村谷川瀬山 三一同龍
農業技術員會議 石城郡
農會では十二日前午十時か
午後二時より第二校に開き
各校の連絡融和その他を協
議した

完全燃焼のため煙筒掃除の要なき
杜氏へ注意 平税務署で
は去る十日縣竹内技師を招
酒造業者及杜氏を招集の
門寺 四一平窓村横山臺
五一内宮村白水阿彌陀堂
六一同宮小學校 高等科
一湯本町領城

靈峰羊羹
前田醫院 院長前田清美
平屋賣店 植田町電話一二四
内外科 午後往診
花柳病科 入院應需
入院隨意 電話五七五番
平町田赤心堂病院跡(電話五七五番)

安齊外科醫院

[可認物便郵種三第百二十二月]

昭和二十年九月三十日

新 城 譲

第一千二百一四

青年の覺悟

吉田松雄

自責はない。惡に対する獎

頭を搔きむしりたいやう

意に對して自責と悔恨は

斯くも有らつて、更に不用

悔恨の情の漲る疫が人間

には誰れもあるべき苦だ

意に過誤を重ねて生きて行

康の居る所の光りで此中に

隠してある事が明かである

東大將徳川家康此處に逃げ

來たること必然たり、隠さ

ずして速かに引出し手渡す

べし」と大音聲に呼んだ、

來て曰く「其所の非人共闘

して家康公を隠す、そこへ

眞田幸村が只一騎に追つて

其時市忠町嘗に禮して曰く

此所は國家を益する、而も

國家の財を掘り出する金山で

あるから必ず非人は居ませ

ん。我等は身命を惜まず

に答へました、幸村は大に立

下を望むに一つの洞空に光

りが見れる、あれは徳川家

康の居る所の光りで此中に

隠してある事が明かである

重忠曰く、此の坑内か

ら光りの見ゆるもののは一つ

も不思議でない、此所は財

話夜
(承前) 然るに此所へ竹中重忠とい

ふ昔先祖は竹中半兵衛と謂

つて濃州菩提寺城主であつ

た時、農臣秀吉、織田信長

に仕へ、數度の戦功により戦功

をあらはし、天正五年病死

す其の子貞忠は忠臣にして

母神、大本布木(矢木の

こと)は薬師の十二神将を

表し、表面の三十六枚の面

板は地の三十六禽を象り、

可憐に一禮して坑内に案内

して家康公を隠す、そこへ

眞田幸村が只一騎に追つて

其時市忠町嘗に禮して曰く

此所は國家を益する、而も

國家の財を掘り出する金山で

あるから必ず非人は居ませ

ん。我等は身命を惜まず

に答へました、幸村は大に立

下を望むに一つの洞空に光

りが見れる、あれは徳川家

康の居る所の光りで此中に

隠してある事が明かである

重忠曰く、此の坑内か

ら光りの見ゆるもののは一つ

も不思議でない、此所は財

話夜
(承前) 然るに此所へ竹中重忠とい

ふ昔先祖は竹中半兵衛と謂

つて濃州菩提寺城主であつ

た時、農臣秀吉、織田信長

に仕へ、數度の戦功により戦功

をあらはし、天正五年病死

す其の子貞忠は忠臣にして

母神、大本布木(矢木の

こと)は薬師の十二神将を

表し、表面の三十六枚の面

板は地の三十六禽を象り、

可憐に一禮して坑内に案内

して家康公を隠す、そこへ

眞田幸村が只一騎に追つて

其時市忠町嘗に禮して曰く

此所は國家を益する、而も

國家の財を掘り出する金山で

あるから必ず非人は居ませ

ん。我等は身命を惜まず

に答へました、幸村は大に立

下を望むに一つの洞空に光

りが見れる、あれは徳川家

康の居る所の光りで此中に

隠してある事が明かである

重忠曰く、此の坑内か

ら光りの見ゆるもののは一つ

も不思議でない、此所は財

話夜
(承前) 然るに此所へ竹中重忠とい

ふ昔先祖は竹中半兵衛と謂

つて濃州菩提寺城主であつ

た時、農臣秀吉、織田信長

に仕へ、數度の戦功により戦功

をあらはし、天正五年病死

す其の子貞忠は忠臣にして

母神、大本布木(矢木の

こと)は薬師の十二神将を

表し、表面の三十六枚の面

板は地の三十六禽を象り、

可憐に一禮して坑内に案内

して家康公を隠す、そこへ

眞田幸村が只一騎に追つて

其時市忠町嘗に禮して曰く

此所は國家を益する、而も

國家の財を掘り出する金山で

あるから必ず非人は居ませ

ん。我等は身命を惜まず

に答へました、幸村は大に立

下を望むに一つの洞空に光

りが見れる、あれは徳川家

康の居る所の光りで此中に

隠してある事が明かである

重忠曰く、此の坑内か

ら光りの見ゆるもののは一つ

も不思議でない、此所は財

話夜
(承前) 然るに此所へ竹中重忠とい

ふ昔先祖は竹中半兵衛と謂

つて濃州菩提寺城主であつ

た時、農臣秀吉、織田信長

に仕へ、數度の戦功により戦功

をあらはし、天正五年病死

す其の子貞忠は忠臣にして

母神、大本布木(矢木の

こと)は薬師の十二神将を

表し、表面の三十六枚の面

板は地の三十六禽を象り、

可憐に一禮して坑内に案内

して家康公を隠す、そこへ

眞田幸村が只一騎に追つて

其時市忠町嘗に禮して曰く

此所は國家を益する、而も

國家の財を掘り出する金山で

あるから必ず非人は居ませ

ん。我等は身命を惜まず

に答へました、幸村は大に立

下を望むに一つの洞空に光

りが見れる、あれは徳川家

康の居る所の光りで此中に

隠してある事が明かである

重忠曰く、此の坑内か

ら光りの見ゆるもののは一つ

も不思議でない、此所は財

話夜
(承前) 然るに此所へ竹中重忠とい

ふ昔先祖は竹中半兵衛と謂

つて濃州菩提寺城主であつ

た時、農臣秀吉、織田信長

に仕へ、數度の戦功により戦功

をあらはし、天正五年病死

す其の子貞忠は忠臣にして

母神、大本布木(矢木の

こと)は薬師の十二神将を

表し、表面の三十六枚の面

板は地の三十六禽を象り、

可憐に一禮して坑内に案内

して家康公を隠す、そこへ

眞田幸村が只一騎に追つて

其時市忠町嘗に禮して曰く

此所は國家を益する、而も

國家の財を掘り出する金山で

あるから必ず非人は居ませ

ん。我等は身命を惜まず

に答へました、幸村は大に立

下を望むに一つの洞空に光</p

